

(トピック型) プログラム 活動(ユニット)案 「図書館」

プログラム名 : トピック型日本語プログラム	
授業名	図書館
対象児童・生徒	() 小低 (○) 小中 (◎) 小高 (○) 中学生 ◎ : 主な対象 ○ : 対象
時間	(30) 分 × (2回)
形態	(○) 少人数グループ () 個別
主な対象の日本語の力 (ことばのものさしで)	・自分に身近な話題に関し、教師や友達のゆっくりはっきりした質問に、既習の語彙・表現の一部を使って答えることができる。絵図等を含む、既習の定型表現等を用いた短い文章を、拾い読みや単語で区切りながらゆっくり読むことができ、モデルを参考に身近な話題について文を書くことができる。
	[聞く・話す] ステップ3 [読む] ステップ3 [書く] ステップ3
	[聞く・話す] ステージD [読む] ステージD [書く] ステージD
目標 (Can-do)	図書館でできることとルールを知り、教師の支援を得ながら、読みたい本を探して借りたり、返却したりすることができる。
既習事項	・学校施設名 ・ここ、そこ、あそこ/どこ ・～貸して/見せてください ・～たいです ・(おもしろ) かったです
語彙・表現	語彙 図書館、バーコード (図書カード)、読み聞かせ、○週間 借りる、返す、調べる、相談する、ページ 絵本、国名、料理、動物、歴史、漫画、迷路、英語、～語 (太字を目標とし、他は紹介程度とする)
	表現 ・話さないでください (書かない、折り曲げない、走らない) ・しずかに/ゆっくり ・元の世界 ・大切に
コア日本語 (文型・文法/語彙)	・～ことができます (可能) ・～ないでください (禁止) ・～までに (返してください) (期限) ・～ましょう (行動の促し・軽い命令) 借りる、返す 図書館、(図書) カード
主な活動	学習活動
	学習方略
実施上の留意点	・図書館にある図書を知り、本に関心を持つことを第一の目標とし、図書の種類については、その子どもの関心に即して選んで取り扱うようにする。 ・図書の扱い方や利用ルール、本の借り方は絵図等で理解を促し、実際に本を借りられるようになることを重視する。関連語彙・表現を覚えることは目標としない。 ・図書館に、母語や他の国の言語の図書があれば、積極的に紹介する。
アイデア	<児童生徒の多様性への対応> ・読み聞かせの本を、下学年であれば絵本・紙芝居に変更するなど、年齢や日本語の力に応じて選択して実施する。 ・中学生の場合、図書館でできることを生徒への質問で引き出して、整理してもよい。また、地域の図書館の位置や利用について、母語等で情報提供する。
	<他のプログラム教科との関連> トピック型プログラムのトピック「持ち物」に関連付け、本の貸し出しと返却の活動を実施することも可能。 日本語の力がもう少し高い児童の場合は、国語科の「読むこと」単元で、図書紹介の活動と関連付けて実施できる。また、在籍学級の社会科等の調べ学習に関連付け、図書館の利用方法の他、資料の調べ方も併せて学べるように工夫することができる。

活動案 【第1回】

本時の目標			
図書館にある本や図書館でできることや本の取り扱い方の注意点を知り、教師の支援を得ながら、読みたい本を探して借りることができる。			
時間	活動展開	活動を行うための表現	○教材 ◇支援 △留意点
7分	導入 1 図書館を巡って、どんな本があるか知る。	T: どんな本がありますか。 S: おはなし／動物の本／電車の本 T: ～さんの国の図書館にもありましたか。図書館で何をしましたか。 S: 本を読んだ。本を借りた。	◇本を手にとらせてやりとりし、関心がある本の種類の名称を知らせる。→活動4 ◇出身国の学校の図書館での経験についても尋ねる。
15分	2 図書館でできることを知る 3 本の扱い方の注意点を考える。	T: (絵図を示し) 学校の図書館で、何ができますか。 S: 読む、借りる、見る T: そうですね、 本を借りることができます。1週間、借りることができます。 (調べる、相談する、読み聞かせを聞く) T: 図書館の本を読みます。(本の扱い方の例を絵でしめし) どちらがいいですか。どうしてですか。 S: こっち。手がきれい。 S: こっちはだめ(ジュスチャーで折るしぐさ、書くしぐさ、乱暴にめくるしぐさ)。 T: そうですね。 本を大切にしましょう。	○図書館の様子が見えるポスターの絵図・写真等 △「ことができます」は、聞いて理解できればよい。 ◇児童の反応をもとに板書等で以下を示し参照させる。 ・本を借りる ・調べる ・相談する ・読み聞かせを聞く ○本の扱い方(良い例・悪い例)の絵やイラスト ◇児童が選んだよい例に教師が注意点を示す。出てこなければ教師から示す。 ・きれいな手で読みましょう。 ・ゆっくりめくりましょう ・折り曲げないでください。 ・書かかないでください。
8分	4 借りたい本を探し、本を借りる。 ・図書先生に尋ねて、借りる本を探す。 ・本を借りる。	T: 本を借りましょう。 どんな本が読みたいですか。 先生にどこですかと聞きましょう。 S: ()の本が読みたいです。 ()の本は、どこですか。 S: (学年・クラス・名前)です。 この本を借りたいです。 T: バーコードを見せてください。 (実際に貸し出し手続きをする) T: どうぞ。○月○日までに返してください。 S: ありがとうございます。	△図書館の先生に、事前に図書利用と本の貸し出しについて依頼しておく。 ◇本の種類を板書等で示しておき、参照させる。 料理、動物、歴史、漫画、迷路、～語、国・地域 △手続きは、実際の状況に応じて変更する。 ◇第2回の学習で返却することを伝えておく。
評価の対象と観点	活動2、3	図書館利用や本の取り扱いの絵図を見ながら、できること、本を取り扱う際の留意点について、理解ができたか。	
	活動4	読みたい本の場所を尋ねて本を探し、本を借りることができたか。	

活動案 【第2回】

本時の目標 読み聞かせを楽しみ、期日までに図書を返却することや図書館のルールを守ることの大事さを理解し、積極的に図書館を利用しようと思えることができる。			
時間	活動展開	活動を行うための表現	○教材 ◇支援 △留意点
7分	導入 1 借りた本について感想を述べ、本を返却する。	T:○日に本を借りました。 本はおもしろかったですか。どこがおもしろかったですか。 S:○○が、おもしろかったです。 T:本を返しましょう。バーコードを見せてください。 S:はい。返します。 ありがとうございました。 T:元の場所に戻しましょう。 (返却手続きを行う)	◇自分できるよう、図書の返却手続きを体験させる。
20分	2 読み聞かせを通じて、読書の楽しみを体験する。 3 図書館利用のルールを理解する。	T:今日は、読み聞かせをします。 (絵本を示し) どの本が読みたいですか。 S:『じぶんだけのいろ』がいいです。 T:(読み聞かせ後) 誰が、何をしましたか。 S:カメレオンのいろがわかる。 T:どこがおもしろかったですか。 S:このページ。 ともだちと同じ色になります。 T:1年生～6年生まで、みんな、図書館で、本を読みます。調べます。こんな人、どうですか。(ルールを破っている子どもの絵) S:本がここにある。／走る／声大きい。 T:そうですね。図書館にはルールがあります。見てください(板書等)。 S:(確認して、ルールを読む) T:図書館のルールです。守ってくださいね。	○絵本『じぶんだけのいろ』等の絵本(選べるように数冊準備) ◇理解を促すため、やりとりをしながら、読み聞かせを進める △感想については、子どもの日本語の力に応じて、質問を変更して尋ねる。 ○ルールを破っている子どもの絵(紙芝居的なもの) ◇児童が絵から気づいたことから、ルールを板書や文字カード等で示す。 例(学校のルールに従って) ・元の場所にもどしましょう ・静かに読みましょう ・走らないでください ・大きな声で話さないでください。
3分	4 本を借りる	T:今日も、本を借ります。 S:この本が借りたいです。図書カードです。お願いします。 T:どうぞ。 ○月○日までに返してください。	△本の貸し出し・返却に慣れて、積極的になるよう、できるだけ定期的に図書利用の機会を作るようにする。
評価の対象と観点	活動2 読み聞かせを楽しみ、理解し感じたことを、本を指さしたり本の表現を使ったりして話すことができたか。 活動3 ルールを理解して、図書館を利用しようとしているか。		

読み聞かせの絵本例

- ・レオ・レオニ 『じぶんだけのいろ』
- ・ピーター・レイノルズ『てん』
- ・よしたけしんのすけ『ころべばいいのに』『りんごかもしれない』
- ・なかや みわ『くれよんのくろくん』
- ・デヴィッド・カリ 文、セバスチャン・ムーラン 絵『まめまめくん』